

各国医師やボランティアが集まって外国人の医療相談の打ち合わせ。実践的な知恵が生まれる。右端が小林米幸医師
—東京・世田谷のAMD A国際医療情報センターで



日本で病気 これで安心

外国人用医療ガイド次々

民間の医師ら 制度と心構え紹介

急速に増えてきた外国人向けに、民間の医療関係者が続々と医療ガイドブックをつくり始めた。政府の対応が遅れっぱなしと言われる中で、かすかな光明と言えそうだ。

神奈川県大和市西鶴間的小林米幸・小林国際クリニック院長が、『日本の医療・福祉制度ガイド』を出版した。日本語のほか、中英韓西語とポルトガル語の計六カ国語。

「長年、外国人診療に当たってきて、一番不自由なのは制度だと思えます」。特にいわゆる不法就労者については法的な整備がなく、非常にやわこしいという。

本の中身は、どんな資格なら社会保険に加入できるか、多いトラブルの原因や解決法など、きわめて実践的。

小林さんは、インドシナ難民の医療にも尽力し、外国人からの相談に乗るアジア医師

連絡協議会（AMD A）国際者向けに『外国人患者診療

医療情報センターの所長でもある。

「五カ国語は直訳でなく、AMD A仲間の協力で、各国の制度をモトに解説しつつ訳しました」

小林さんはまた、医療関係者向けに『外国人患者診療

看護婦さんもテープ付き問答集

看護婦グループが「ナースのための××語会話」をテープ付きでまとめた。とりあえ

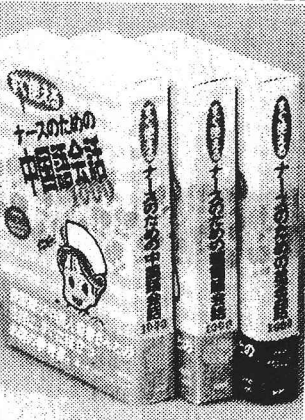
「看護雑誌の企画会議から、外国人の受診にこたえる会話が教材がない。結局、自分たちで作ってしまった」と、編集

代表の佐藤加代子さん（ヘルシーライフサービス主任看護婦）は話す。

診療のほか、食事や検査などいろいろな場面を想定した。医療人と外国人患者が、お互

いに本のその箇所を指して意思を通することもできる。

◆ナースの外国語研究会編「ナースのための英会話」桐書房・四五〇〇円（中国語・韓国語は五五〇〇円）。



看護婦グループの外国語会話の勉強から生まれた「ナースのための外国語会話」のラインアップ

●10カ国語の会話集

三修社が「来日した外国人のために」と十カ国語の臨床会話集を出版。英独仏ポ西中韓のほか、フィリピン、タイ、

ガイドブック」も著した。外国人にどう接すべきか、「治療費が不足した場合、値引きすると後が大変。次の受診まで立て替える手もある」など、実践的な助言があれこれ。

「日本人をはじめは親切だが肝心なとき突き放す」と外国人がぼやきます。「何でもやりますから言ってください」と言えは、外国人は言葉通りに受け取ります。外国人が一人で暮らしやすくなるような助けを」といふ。

◆小林米幸「日本の医療・福祉制度ガイド」中山書店・三〇〇〇円。◆同「外国人患者診療ガイドブック」KKミクス（東京・神田）・二〇〇〇円。◆AMD A国際医療情報センター ☎〇三三七〇六一四二四三（AMD Aで十一カ国語の問診表を製作・販売している。送料共一組五〇〇円）。